

● 令和4年度 経営発達支援計画事業 事業報告・評価

平成26年6月に小規模支援法が改正され、小規模事業者の持続的発展を支援するために商工会及び商工会議所が、小規模事業者の課題に対して事業計画の作成や着実な事業の実施を支援すると共に、地域活性化につながる事業を策定し事業者に寄り添って支援する体制を整えた「経営発達支援計画」を国が認定する制度が導入され、当所では【産業間連携による地域資源の活用】、【人口減少による事業所数の減少・労働力不足による地域力の低下】、【「個」の競争力ではなく「地域」面としての競争力を高める地域間連携の推進】の地域の課題を抽出。

5つの目標方針①小規模事業者の経営力・競争力強化に向けた事業計画作成支援と企業・人材の育成、②小規模事業者数の減少防止に向けた事業承継・新規創業支援、③人口減少に向けた小規模事業者の労働力確保事業の推進、④地域資源の活用と観光の推進による交流人口の拡大、⑤支援機関の連携強化と伴走型支援体制の強化に基づき「経営発達支援計画」を策定、関係機関と連携し、令和2年3月16日に経済産業大臣から2期目となる事業認定を受け（実施期間：令和2年4月1日～令和7年3月31日）、地域中小企業・小規模事業者の方々に対する伴走型支援を実施。

1. 地域の経済動向調査に関する事 【項目判定B】

地域内の景気動向・業界動向の実態を迅速に把握し課題を抽出し経営改善支援に繋げる。経営指導員による巡回訪問を実施し個別課題を把握する。

調査事業等	3年度実績	4年度目標	4年度実績	判定	5年度目標
北見市における景気動向調査	4回	4回	4回	A	4回
新規学卒者予定初任給調査	1回	1回	1回	A	1回
中小企業振興委員連絡会議	1回	3回	2回	B	3回
ビックデータの活用・公表	0回	1回	0回	D	1回

2. 経営状況の分析に関する事 【項目判定A】

各種セミナーの開催により支援を必要とする小規模事業者の掘り起しを行うと共に経営指導員による巡回により経営状況を個別に把握し、経営改善支援（経営分析件数：40件）に繋げる。

事業等	3年度実績	4年度目標	4年度実績	判定	5年度目標
巡回訪問	475件	—	574件	—	—
創業セミナーの開催	5回	6回	6回	A	6回
各種セミナーの開催	18回	16回	19回	A	16回
経営分析件数	65件	40件	79件	A	50件
専門家相談件数	127件	40件	124件	A	50件

3. 事業計画策定支援に関する事 【項目判定A】

経営指導員による巡回、地域の経済動向調査、経営状況の分析を活用し数字・データに基づく事業計画策定支援（事業計画策定事業者：24社）を実施。創業支援では新規創業計画作成支援（支援者数：20人）を行う。

事業等	3年度実績	4年度目標	4年度実績	判定	5年度目標
巡回訪問	475	—	574	—	—
事業計画セミナー・相談会の開催	2回	2回	2回	A	2回
事業計画策定事業者数	70社	24社	44社	A	30社
経営革新セミナーの開催	0回	1回	0回	D	—
創業セミナーの開催	5回	6回	6回	A	6回
創業支援者数	34人	20人	38人	A	20人

4. 事業計画策定後の実施支援に関する事 【項目判定A】

経営指導員による巡回指導を定期的に行い、事業計画を策定した事業者が着実に計画を推進できるよう事業者に寄り添った伴走型支援を行う。また、創業では創業者間の情報交換会を開催し、創業時における課題・悩み等の共有と解決、仲間づくりを図り、開業後の事業存続率60%以上を目指す。

事業等	3年度実績	4年度目標	4年度実績	判定	5年度目標
巡回訪問	475件	—	574件	—	—

創業支援者数	34人	20人	38人	A	20人
事業計画策定事業者数	70社	24社	44社	A	24社
創業者間情報交換会の開催	1回	2回	1回	B	2回
第2創業（経営革新）支援者数	—	—	—	—	—
事業計画実施のフォローアップ 件数	96件 289回	44件 234回	74件 270回	A	50件 258回

5. 需要動向調査、新たな需要の開拓に寄与する事業に関する事 【項目判定B】

地域内外における各種展示会・商談会への出展を促し、「バイヤー・来場者の生の声」を収集するなどし、自社商品の認知度・課題を把握すると共に市場や競合を調査する。

食関連では、まちづくり会社やアンテナショップを活用しテスト販売支援等の機会を活かし需要動向調査を行う。

事業等	3年度実績	4年度目標	4年度実績	判定	5年度目標
展示会・商談会の開催	1回 (北見スイーツ フェア)	2回	1回 (北見スイーツ フェア)	B	2回
(卸・小売業)、(工業・IT) 等の展示会参加回数	1回	4回	1回	D	4回
(卸・小売業)、(工業・IT) 等の展示会出展支援者数	4社	14社	4社	C	14社
展示会におけるアンケートの実施	1回	2回	1回	B	2回
ITリテラシー等セミナーの開催	3回	2回	3回	A	2回

6. 地域経済の活性化に資する取組 【項目判定B】

関係機関との連携による経営支援並びに地域活性化に向けた取組についての情報共有を図ると共に事業の検討を行う。食イベント・交流人口拡大イベントの開催。中心市街地の活性化に向けた空き店舗対策事業の実施。若年者の雇用機会の確保と地域間連携による産業振興を推進する。

事業等	3年度実績	4年度目標	4年度実績	判定	5年度目標
検討会議の開催（融合センター事務局会議・街コン実行委員会）	12回	14回	12回	B	14回
地産地消フェスタ	0回（コロナ禍により中止）	1回	1回	A	1回
厳寒の焼肉まつり	0回（コロナ禍により中止）	1回	1回	A	1回
北見ぼんちまつり	0回（小学校・幼稚園に花火配布）	1回	1回	A	1回
きたみde街コン	0回（コロナ禍により中止）	1回	0回（コロナ禍により中止）	D	1回
きたみde婚カツ	0回（コロナ禍により中止）	2回	0回（集客できず中止）	D	2回
北見工業大学生に対する企業説明会	0回（コロナ禍により中止） ※ガイドブック配布による地元企業PRを行った	1回	1回	A	1回
道内大学生に対する企業説明会	0回（コロナ禍により中止） ※ガイドブック配布による地元企業PRを行った	—	0回（コロナ禍により中止） ※ガイドブック配布による地元企業PRを行った	D	—
U・Iターン相談会	2回（北見市・雇用創造協議会連携）	—	2回（北見市・雇用創造協議会連携）	A	—
高校生・専門学校生・大学生の地元企業見学会	2回（北見市・雇用創造協議会連携）	1回	2回（北見市・雇用創造協議会連携）	A	1回

まちななかSHOW10	実施	継続実施	実施	A	継続実施
オホーツク地域6会議所包括連携	企業説明会0回 大学生及び教員との 意見交換会0回	事業実施検討	企業説明会1回 大学生及び教員との 意見交換会0回	B	事業実施検討

7. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関する事 【項目判定A】

連携機関との懇談会の開催、金融機関との金融懇談会の開催、オホーツク商工会議所経営指導員連絡連絡協議会の開催により情報共有を図る。

事業等	3年度実績	4年度目標	4年度実績	判定	5年度目標
金融懇談会の開催	1回	—	1回	A	—
オホーツク商工会議所経営指導員 連絡連絡協議会の開催	3回	3回	3回	A	3回

8. 経営指導員の支援能力の向上の取組

日本商工会議所・北海道商工会議所連合会主催及び中小企業大学校における「支援機関職員研修」等への参加による支援能力の向上を図る。

研 修	4年度参加者
税務相談対応力向上研修（法人税）	1名
飲食業の経営改善支援	1名
人事労務リスクマネジメントの進め方	1名
中小企業のDX導入支援の進め方	1名

9. 支援ノウハウ等を組織内で共有する体制

若手職員に対するベテラン経営指導員とのチーム体制による支援体制の構築を図る。

【判定基準】

- A・・・目標を達成することができた（100%以上）
- B・・・目標を概ね達成できた（80%～99%）
- C・・・目標を半分程度しか達成することができなかった（30%～79%）
- D・・・目標をほとんど達成することができなかった（30%未満）

【評価にあたっての注意事項】

コロナ禍により接触機会の削減等も考慮しながらITの活用推進を行い、『伴走型小規模事業者支援推進事業費補助金』の活用と共に連携機関との情報共有等を強化し、小規模事業者に対する伴走型支援を行った。

令和4年度事業実施前に挙げられた改善点（昨年の評価委員会で指摘事項）の進捗状況について

① 創業促進補助金の活用が増えているのは良い事だが、創業後の事業活動がうまく流れていくようにフォローする事が大事。

⇒当所職員の対応と、北見ビジネス総合サポートセンター（旧産学官融合センター）、北見市はじめ他の関係機関と連携して支援を行っていく事とし、4年度においては、創業後でも、創業実践セミナーや個別相談への参加誘引、創業者交流会の開催、また巡回訪問にて開業後のフォローを行った。

② 地域経済の活性化に資する取組の中で、数々のイベントが中止になった事が3年度報告から見て取れるが、4年度のイベント開催予定はどうなるか。

⇒コロナ禍の状況を見ながら地域内外での展示会・商談会支援は継続して支援、地域のイベントもコロナ禍における開催を模索して進める事とし、4年度においては、3年ぶりに第69回北見ぼんちまつりを1日のみ開催、オホーツク合同企業セミナーも2年ぶりの開催を遂げた。街コンについては協議の上中止、婚カツ事業については募集を掛けたが定員を割り中止とした。

【次年度に向けての課題と取組】

新型コロナウイルスが5月のゴールデンウィーク明けからインフルエンザと同等の5類となったが、まだまだ市民や事業者の対応は手探り状態である事から、巡回を強化し、「伴走型小規模事業者支援推進事業費補助金」の活用等で事業所に対して、販路を拡大し利益を上げていくフォローアップをしていく。併せて、連携機関との情報共有等を密にして、以下の点を重点に小規模事業者に対する伴走型支援を強化していく事とする。

- ① 法定経営指導員を中心に、各種セミナー受講者、金融相談事業者など業務を通じて小規模事業者の掘り起こしを行い、クラウド型経営支援基幹システム「BIZミル」を活用して適切な分析を行い、実績を重ねていく。
- ② 事業計画策定等支援にあたり、国等が提供するRESAS等のビックデータを活用し、事業計画の精度を上げ、策定された計画の達成に向けて支援していく。
- ③ 経営分析件数が増加してきた事（主に小規模事業者持続化補助金支援の増加）により、事業計画策定後のフォローアップ件数も伸びているが、令和5年度はさらにきめ細かくフォローアップを行い、策定した計画に沿った事業の進捗状況を確認し支援していく。また、創業間もない（開業から3年程度）の事業者に対するフォローアップも、関係機関や専門家等と連携し、個別相談や巡回訪問を行っていく。
- ④ 展示会・商談会出展支援事業者についてコロナ禍ではあるが、これまで出展した事業所も含めより多くの小規模事業者に出展を促すと共に、出展事業者のアウトカムの目標設定を行い、出展効果を高めていくこととする。併せて、ネット販売等に対する取組み支援を行っていく。
- ⑤ 本計画を推進するうえで、北見市との連携を強固にしながら小規模事業者への伴走型支援を実施する。